



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	県営住宅麻機羽高団地建替整備事業 1工区D棟	BEE	3	BEEランク	S	★★★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	4.1	/5	よい			
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.1	/5	ふつう			
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.7	/5	ふつう			
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.7	/5	ふつう			
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点	4.1
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②屋光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)</p> <p>①日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」等級5を満たす計画とした。</p> <p>③カーテン、庇の2種類を組み合わせグレアを制御した。</p> <p>④給水管、雑排水管、通気管にVPを採用し、配管の更新必要間隔に配慮した。</p>	Q-1 2 2.1 2.1.2	① 外皮性能	
	Q-1 3 3.1 3.1.3	② 屋光利用設備	
	3 3.2 3.2.1	③ 屋光制御	
	Q-2 2 2.2 2.2.1	④ 躯体材料の耐用年数	
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑤外構緑地指数30%以上を確保した。</p> <p>⑥空地率は70%以上であり、風の通り道を確保し敷地内温度環境の向上に務めた。</p>	Q-3 1	⑤ 生物環境の保全と創出	
	3 3.2	⑥ 敷地内温熱環境の向上	
	LR-1 1	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制	
	2	⑧ 自然エネルギー利用	
<p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</p> <p>⑦日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」等級5を満たす計画とした。</p> <p>⑨LED照明の採用。</p>	3	⑨ 設備システムの高効率化	
	4 4.1	⑩ モニタリング	
	4 4.2	⑩ 運用管理体制	
	LR-2 1 1.1	⑪ 節水	
<p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)</p> <p>⑫異形棒鋼NewJ-BARを採用すること使用材料を削減。</p> <p>⑬ODP=0かつGWPが低い発泡剤を用いた断熱材を使用。</p>	1.2 1.2.1	⑪ 雨水利用システム導入の有無	
	1.2 1.2.2	⑪ 雑排水等利用システム導入の有無	
	2 2.1	⑫ 材料使用量の削減	
	2.2	⑫ 既存建築躯体等の継続使用	
	2.3	⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用	
	2.4	⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
	2.5	⑫ 持続可能な森林から産出された木材	
	2.6	⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み	
	3 3.1	⑬ 有害物質を含まない材料の使用	
	3.2 3.2.1	⑬ 消火剤	
3.2.2	⑬ 断熱材		
3.2.3	⑬ 冷媒		
LR-3 1	⑭ 地球温暖化への配慮		
2 2.2	⑮ 温熱環境悪化の改善		
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点	3.1
<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</p> <p>⑰節水型大便器を採用している。</p>	Q-2 2 2.1 2.1.1	⑯ 耐震性	
	2.4 2.4.1	⑯ 免震・制振性能	
<p>■しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)</p> <p>⑰サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</p> <p>⑱階高のゆとりを2.9m以上とした。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)</p> <p>㉑視線を遮らないような緑化計画とし、防犯性に配慮した。</p>	2.4 2.4.2	⑰ 空調・換気設備	
	2.4.3	⑰ 給排水・衛生設備	
	2.4.4	⑰ 電気設備	
	2.4.4	⑰ 機械・配管支持方法	
	2.4.5	⑰ 通信・情報設備	
	Q-2 1 1.1 1.1.3	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画	
3 3.1 3.1.1	⑲ 階高のゆとり		
3 3.1.2	⑲ 空間の形状・自由さ		
Q-3 3 3.1	⑲ 地域性への配慮、快適性の向上		
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点	3.7
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑤外構緑地指数30%以上を確保した。</p> <p>⑥空地率は70%以上であり、風の通り道を確保し敷地内温度環境の向上に務めた。</p>	Q-3 1	⑤ 生物環境の保全と創出	
	2	⑥ まちなみ景観への配慮	
	3 3.2	⑥ 敷地内温熱環境の向上	
<p>■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑫異形棒鋼NewJ-BARを採用すること使用材料を削減。</p> <p>⑮風を回復させるよう隣棟間隔指標を工夫した。</p>	LR-2 2 2.5	⑫ 持続可能な森林から産出された木材	
	LR-3 2 2.2	⑮ 温熱環境悪化の改善	

CASBEE[®] - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	県営住宅麻機羽高団地建替整備事業	階数	地上5F
建設地	静岡県静岡市葵区あさはた一丁目2	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、第1種	平均居住人員	100人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年11月 予定	評価の実施日	2023年7月5日
敷地面積	3,304㎡	作成者	株式会社 市浦ハウジング&プランニング
建築面積	632㎡	確認日	
延床面積	2,351㎡	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆ (30%) ☆☆☆☆☆ (60%) ☆☆☆☆☆ (80%) ☆☆☆☆☆ (100%) ☆☆☆☆☆ (100%超)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	71%
③上記+②以外の	71%
④上記+	71%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 3.9**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.9

音環境	3.2
温熱環境	5.0
光・視環境	3.2
空気質環境	3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

機能性	4.1
耐用性	3.1
対応性	3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.2

生物環境	4.0
まちなみ	5.0
地域性・	3.6

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 4.0**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.6

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	5.0
効率的	4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

水資源	3.4
非再生材料の	3.8
汚染物質	3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

地球温暖化	4.1
地域環境	3.6
周辺環境	3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 これは、CASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。 良好な都市環境を形成し、賑わいのある街並みを維持するよう努める計画とした。		その他 特になし
Q1 室内環境 F☆☆☆☆の内装建材を採用し、室内空気環境に配慮した。	Q2 サービス性能 耐用年数の長い配管を採用し更新必要間隔を長くするように努めた。	Q3 室外環境(敷地内) 緑化計画において、視線を遮らない様な樹木の配置を行い防犯性に配慮した。
LR1 エネルギー 日本住宅性能表示基準「5-1 断熱等性能等級」等級5を満たす計画とし、省エネルギーで快適な室内環境を整えられるよう務めた。	LR2 資源・マテリアル 有害物質を含まない材料を使用するよう努め、リサイクル資材を採用した。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率を参照値より抑制し、地球温暖化へ配慮した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される